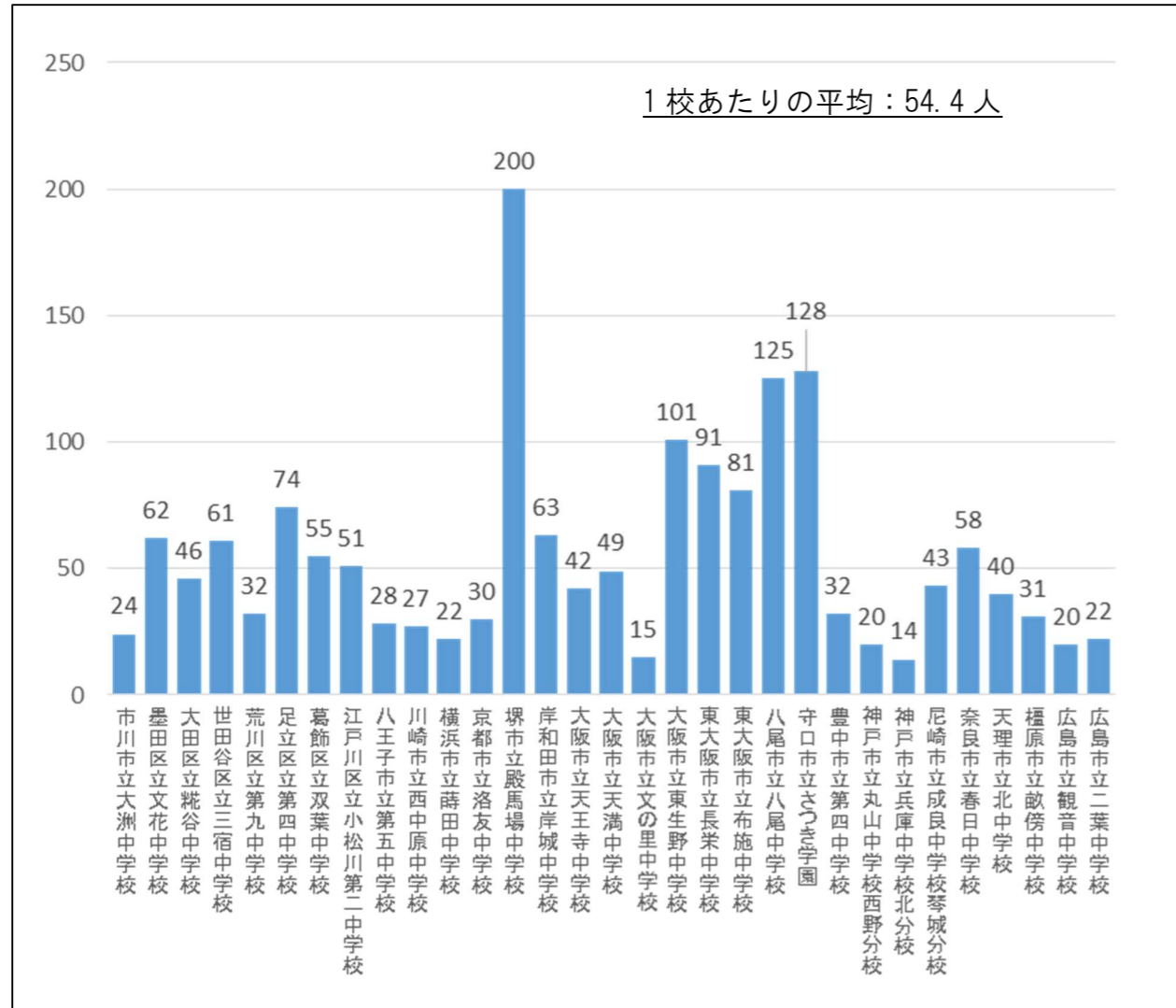


札幌市における公立夜間中学の在り方について（第一回資料）

(3) 全国の公立夜間中学の状況【平成29年度夜間中学等に関する実態調査（文部科学省）より】

ア 学校の規模、体制

○ 学校別生徒数



○ 夜間中学に配置されている教職員数（回答対象校数：31校、下表は主な職員抜粋）

	校長	副校長・ 教頭	教諭 (※)	養護教諭 (※)	事務職員	用務員
専任	0	27	221	25	8	10
兼任	31	6	14	1	1	1
総数	31	33	235	26	9	11
平均（専任）	0	0.87	7.13	0.81	0.26	0.32

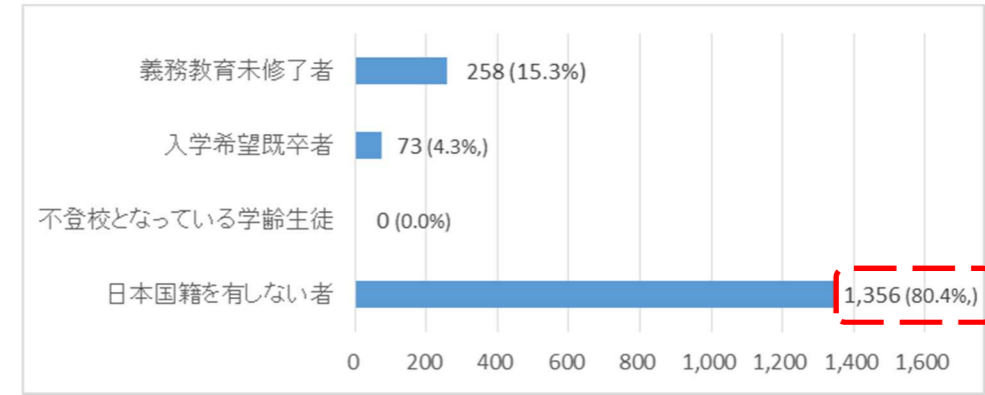
※ 上表の教諭は主幹教諭、指導教諭、教諭、常勤講師を足し合わせた数

※ 上表の養護教諭は養護教諭、養護助教諭を足し合わせた数

⇒ 1校平均の生徒数は54.4名と小規模な学校が多く、専任の管理職1名と教員7～8名程度、養護教諭1名の体制が一般的。

イ 在籍生徒の状況

○ 属性別の生徒数（回答総数は1,687人）



⇒ 在籍生徒の8割が外国籍の生徒

○ 年齢別の生徒数

① 年齢別の生徒数（総数）

	学齢期	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
男	0 (0.0%)	196 (11.6%)	123 (7.3%)	74 (4.4%)	45 (2.7%)	34 (2.0%)	113 (6.7%)	585 (34.7%)
女	0 (0.0%)	146 (8.7%)	162 (9.6%)	151 (9.0%)	172 (10.2%)	128 (7.6%)	343 (20.3%)	1,102 (65.3%)
合計	0 (0.0%)	342 (20.3%)	285 (16.9%)	225 (13.3%)	217 (12.9%)	162 (9.6%)	456 (27.0%)	1,687 (100.0%)

② 日本国籍を有する者の年齢別生徒数（上表①の内数）

	学齢期	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
男	0 (0.0%)	18 (1.1%)	17 (1.0%)	4 (0.2%)	9 (0.5%)	9 (0.5%)	68 (4.0%)	125 (7.4%)
女	0 (0.0%)	20 (1.2%)	13 (0.8%)	6 (0.4%)	14 (0.8%)	27 (1.6%)	126 (7.5%)	206 (12.2%)
合計	0 (0.0%)	38 (2.3%)	30 (1.8%)	10 (0.6%)	23 (1.4%)	36 (2.1%)	194 (11.5%)	331 (19.6%)

③ 日本国籍を有しない者の年齢別生徒数（上表①の内数）

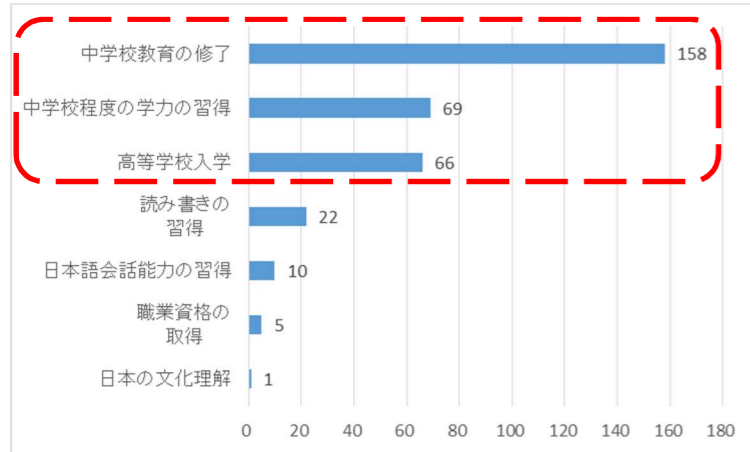
	学齢期	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
男	0 (0.0%)	178 (10.6%)	106 (6.3%)	70 (4.1%)	36 (2.1%)	25 (1.5%)	45 (2.7%)	460 (27.3%)
女	0 (0.0%)	126 (7.5%)	149 (8.8%)	145 (8.6%)	158 (9.4%)	101 (6.0%)	217 (12.9%)	896 (53.1%)
合計	0 (0.0%)	304 (18.0%)	255 (15.1%)	215 (12.7%)	194 (11.5%)	126 (7.5%)	262 (15.5%)	1,356 (80.4%)

⇒ どの世代においても一定数の在籍がある（日本国籍在籍者においては60歳以上の比率が非常に高くなっている）。

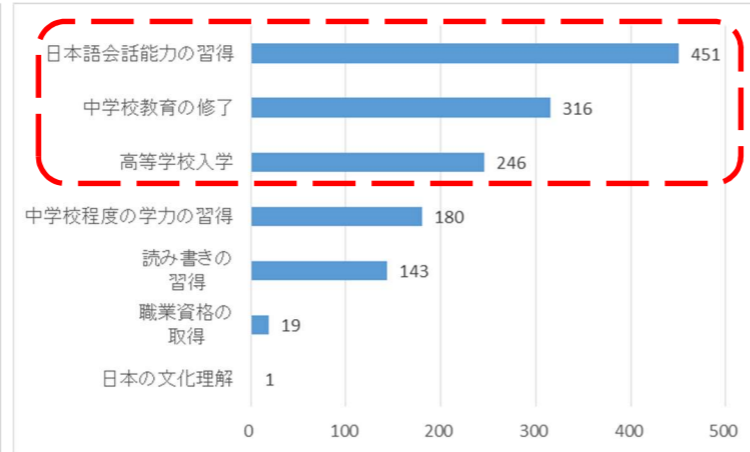
○ 夜間中学への入学理由

高等学校入学	職業資格の取得	中学校教育の修了	中学校程度の学力の習得	読み書きの習得	日本語会話能力の習得	日本の文化理解	合計
312	24	474	249	165	461	2	1,687
(18.5%)	(1.4%)	(28.1%)	(14.8%)	(9.8%)	(27.3%)	(0.1%)	(100.0%)

① 日本国籍（上表の内数）



② 日本国籍を有しない者



⇒ 日本国籍、日本国籍を有しない者ともに「中学校教育の修了」や「高等学校入学」という動機を持つ人が多くなっているが、日本国籍においては、「中学校程度の学力の習得」が比較的高い動機となっており、日本国籍を有しない者においては、「日本語会話能力の習得」が比較的高い動機となっている。

○ 夜間中学卒業後の状況（平成28年度に夜間中学を卒業した生徒数：344人）

卒業後の状況別	日本国籍	日本国籍を有しない者	合計
高等学校進学	29 (8.4%)	126 (36.6%)	155 (45.1%)
専修学校進学	0 (0.0%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)
就職	10 (2.9%)	50 (14.5%)	60 (17.4%)
その他	37 (10.8%)	91 (26.5%)	128 (37.2%)
合計	76 (22.1%)	268 (77.9%)	344 (100.0%)

⇒ 全体で見ると、卒業者の6割程度が進学や就職といった次のステップにつながっている（日本国籍だけ見ても5割以上の卒業生が次のステップにつながっている）。

○ 全国状況のまとめ

- ◆ 学校は小規模校が多く、教職員の規模は全体で10名前後
- ◆ 在籍者の8割は外国籍生徒
- ◆ 在籍者の年齢層は、日本国籍在籍者においては、比較的高齢層が多いが、どの年代も一定程度在籍している。
- ◆ 入学希望理由は、日本国籍と外国籍では異なる
- ◆ 卒業生の6割程度は、高校進学や就職につながっている

(4) 公立夜間中学に係る設置・運営上の工夫

公立夜間中学は、地域の実情や学校の目的に応じて以下のような幅がある。

通常の中学校に近い形	⇔	柔軟な体制を取る形
・基本的には、昼間の中学校をベースとした学習。 ・日本語が不安な生徒については、授業についていける日本語力を身に付けてからの入学を推奨	教育内容	・学年は存在しているが、授業はすべて習熟度別授業（小学校課程の内容含む）。 ・日本語指導が特に必要な生徒については、特別なカリキュラムを編成
・修業年限は3年で、原則的には3年経ったら卒業	修業年限	・修業年限は原則3年ではあるが、本人の希望に応じ9年まで在籍可
・中2や中3からの入学は認めない(全員1年生から)	編入学	・中2や中3からの入学は可能
・入学は4月のみ	入学時期	・随時入学
・比較的入学のハードルが高く、入学後も高いモチベーションが必要 ・生徒の出席率は比較的高い ・在籍状況が安定しているため、年間の学習計画を立てやすい	想定される特徴	・比較的入学しやすく、学習継続もしやすい ・生徒の出席率は比較的低い ・生徒の入れ替わりが多く、年間の学習計画は立てにくい

⇒ 公立夜間中学の設置にあたっては、学校に求められる役割を整理することが重要。

4 札幌市が設置する公立夜間中学の在り方に係る検討内容について

・札幌市における公立夜間中学の在り方について、下記の内容を中心に検討を進める。

1 札幌市が設置する公立夜間中学の目指す姿

札幌市教育委員会が行ったアンケートなども踏まえながら、札幌市が設置する公立夜間中学に求められる役割や目指す姿についてご意見をいただきたい。

2 上記目指す姿の実現に向けた学校づくりの視点

札幌市が設置する公立夜間中学の役割を踏まえて、どのような考え方に基いて学校づくりを進めるべきか、この学校においては、どのような取組や仕組みが必要なのかについてご意見をいただきたい。